

機友しよニュース

(題字は村山五周氏)

機友会全国支部組織の完成に寄せて

立命館大学機友会会長 大庫 典雄
(昭和二四年卒)

錦秋の候、会員各位には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。機友会の運営や諸活動につきましては、平素より、何かとご支援を賜り誠にありがとうございました。

さて、私は前回定時総会で前会長の島田泰男氏より本会会長を引き継がせて頂き、満二年が経過致しました。母校の資料によれば機友会は昭和十六年に学生組織として創設されたとのことであり、実に六十年の歴史を刻んでいます。これはそのまま理工学部の歴史そのものに重なっており、長い伝統と実績を有する機友会会長職の責任の重さを一段と痛感しております。全国各地でご活躍の会員各位のご支援を頂きながら、機友会の発展と母校立命館大学の発展のため、最善を尽くす所存でございます。ひき続き格別のご理解とご鞭撻を賜りますよう、何卒宜しくお願



い申し上げます。

機友会は機械工学科およびロボティクス学科の卒業生・在学生ならびに機械システム系大学院の卒業生・在学生、さらに機械システム系教職員から構成されており、卒業生だけでもすでに七千名を越える巨大な組織に成長して参りました。本会では過年来、全国を十三ブロックに分割した全国規模の支部組織結成の大事業に取り組んで参りましたが、島田

前会長を中心に、役員各位ならびに全国各地の会員各位の熱意溢れるご協力により、本年三月二十四日に第十三番目の東北支部の設立総会が仙台で開催され、文字どおり、全国支部組織がすべて確立されたわけであり、第一号の滋賀支部が設立されたのが平成四年九月六日でしたから、九カ年にわたる一大プロジェクトであり、この支部組織完成は正に機友会の歴史を画する大事業であったと存じます。各支部設立のための諸準備や設立後の支部運営について、各支部の会員各位には大変なご尽力と多大のご支援を賜り、島田前会長ともどもここに重ねて厚くお礼を申し上げます。

全国支部組織の「生みの親」を島田前会長とすれば、私はさしずめ「育ての親」の役回りかと、その責任を痛感致しております。この観点から、機友会本部では役員会等をしばしば開催して、支部活動の支援策を検討致しております。その基本的視点は本部から指令を発するような形態にとらず、すべて各支部の方針を尊重し、支部から出されるご要望やご意見に対して可能な限り、これを実現する方向で柔軟に対応することです。支部ごとに立地条件や会員規模が大きく異なること、本部財政も極めて厳しい状況にありますので、各支部に対して十全な支援策は困難な状況にありますが、第一段階の具体的措置として、平成七年発行

の機友会名簿売上げ収益の支部還元を行うとともに、支部総会開催補助金として総会開催ごとに二万円の補助金を交付させて頂きたく、来る本年十一月十七日開催の第十八回定時総会にお諮りすることにしています。些少な措置で恐縮ながら、各支部のご意見を広く頂戴しながら、機友会および母校のさらなる発展のために、会員の皆様とともにベストを尽くしたく存じます。今後とも本会に対して格別のご理解とご支援を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

最後にになりましたが、会員各位の益々の健勝とご発展を心よりお祈り申し上げます。

第十八回機友会総会 講演会
「マイクロマシン研究の
最先端と産業界への展開」
立命館大学理工学部機械工学科
教授 田畑 修

体内に入って治療を行う治療機械が実現できるのか？ そのような夢に向けた努力が成されている機械分野がある。腕時計やプリンタなどの精密機械の製造で培った精密加工技術とLSIの製造で培った半導体微細加工技術を応用してマイクロコンピュータのスペースにさまざまな機能を集積化した機械、マイクロマシンである。マイクロマシンと同様の概念は、



米国では微小電気機械システム(MEMS: Micro Electro Mechanical System)、欧州ではマイクロシステムと呼ばれている。マイクロマシンの機能は生物の持つ多様さ・複雑さには未だ及ばないものの、マイクロマシンのサイズは生物と同程度あるいはそれ以下にまで微細化することが可能になりつつある。この小さなスペースに、電気、電子、機械、光、化学、など多くの要素が集積化される。これらの多種多様な要素機能の集積化によって実現できる高機能・高付加価値により、マイクロマシンは多くの分野での活躍が期待されている。期待される応用分野は、工業用マイクロセンサシステム、情報処理用微小光学システム、細胞操作用マイクロマニピュレータ、微小化学分析システム、薬品合成用マイクロシステム、遺伝子解析用DNAチップ、体内埋込み用医療機器等、実に広範である。マイクロマシンはナノの世界とマクロの世界を結びつける基盤技術でもあり、マイクロマシンの市場規模は二〇一

五年には全世界で六兆円に拡大すると予測されている。シンクロトロン放射光設備や半導体微細加工技術をベースにしたマイクロマシンング技術研究の最先端と今後の産業界への応用展開について具体例を挙げて紹介する。

支部だより

機友会東北支部設立

支部長 榎本 圭介
(昭和五十年卒)

平成十三年三月二四日十三番目の支部として東北支部を立ち上げました。元々、会員数も少なく、東北出身者も少ない小さな支部です。それは機友会の会員が少ないばかりでなく、立命館大学出身者それ自体が東北には少ないので当然のことかもしれません。人口が東北六県の約半分、立命館大学からの距離も東北より更に遠い北海道より少ないのは寂しい限りです。何はともあれ、全国で一番小さい支部を最後に立ち上げたのです。

仙台駅近くの仙台ガーデンパレスを会場に総会は開かれましたが、こちらの支配人は、立命館大学の学友でもあり、とても便宜を図っていた

だきました。

東北支部とは北の青森から南の福島までの縦長の地形のため、青森や秋田からは仙台に来るだけで一日仕事になるほどの距離になります。その為当日何人の人が参加していただけるか、とても心配でした。たまたま、私と同じ会社の後輩がいて宇都宮に住んでいましたので、本来なら関東支部なのに無理やり東北支部に引き込み人数を増やしました。純粹に東北に住んでいる人間だけで役員を振り分けましたところ、東北人四人全員が役員であり、副支部長が会計幹事を兼任せざるを得なくなり、役員だけで今後支部会を開く事になるかも知れません。ただ支部長の私が五十年卒で他の役員は、それぞれ一年ずつあとの卒業年度であ



り、衣笠校舎と同じ時期通った人たちばかりなので、話題が共有できるという強みもあります。今後の課題として、なんとと言っても東北支部総会に参加される人を増やす事です。

最後になりましたが、立命館大学機友会東北支部設立にご尽力くださいました、酒井達雄教授、田中武司教授、大塚典雄機友会会長、島田泰男機友会名誉会長、並びに来賓として来られました学友会宮城支部の加賀谷久雄様にこの場をお借りいたしまして、厚く御礼申し上げます。

関東支部 機友会の思いで

庶務幹事 藤井 勉
(昭和四六年卒)

昭和四二年理工学部・機械工学科に入学。関西線、御堂筋線、京阪電車そして衣笠行きバスでの大阪からの通学は二時間半ぐらいかかったと思う。根性と体力の無い私は、途中で親に泣きつき、下宿に変更。

この環境変化により、授業と通学だけであった学園生活が一変。マージャンやパチンコに加えて、機友会とのつながりができた。時間的余裕ができたこの時に出会ったのが、同期で機友会の学生幹事をやっていた増原、深谷、横尾らであり、新号館・二階の機友会室に頻りにオジャマシ、何時の間にか活動も手伝う様

になった。それが今の関東支部・庶務幹事につながる。

- さて、当時、機友会のメインワークは次の三つだったと記憶する。
- ①新入生から学生会費(千円?)を、又卒業時に終身会費(三千元)を徴収すること
- ②親睦のためのソフトボール大会を主催すること
- ③卒業生名簿を作成すること

新入生から会費を徴収するのは、入学時でもあり、クレームをつける人はまず無かったが、学園紛争を経験し、四年を重ねた卒業生からの終身会費の徴収は一言難癖をつける人が多かったと記憶している。今は学費にプラスして振り込みで徴収している、確実に機友会に入金されるシステムになっていると酒井先生から伺ったように思う。

今の学生はソフトボールなどやるのでしょいか。当時、機友会の主催するソフトボール大会には二回生、三回生そして各研究室からエントリーがあり、結構真剣で、機友会幹事が勤めた審判も大変でした。今の学生はソフトボールなどやるのでしょいか。当世は、みんなと同じこと、チームでの競技に馴染まない学生が多いのでしょいか。サッカーの対抗試合などのかたちで、「機友会主催○○大会」は生き延びているのでしょいか。蛇足ですが、学園祭・後夜祭への出店も続いているのでしょいか。



本文の主題は、③の「卒業生名簿」です。機友会の初期に長く会長を務められた藤谷先生の指導で、先輩の坂倉さん、山陰さん、後輩の坂口、寺島と、卒業生全員への往復はがきの調査から始めた。日満卒の先輩は、音信不通が多く、同期の方を通じての調査は中々は捗らなかつたです。そして、集まった資料の整理を、機友会合宿と称した日本海の海水浴場で二回行い、まあまあ体裁の整った印刷名簿を発刊したと記憶しています。あれから三十年。最近の機友会名簿の充実、自分たちの年代が名簿の前半に位置するのを見て感慨深いものがあります。会員数も増えて大変だと思えますが、学生幹事の方々、今後ともよろしく願いします。

最後になりましたが、関東支部は、

当時総長であった大南先生のご出席もいただき平成八年九月に設立されました。長谷川会長のもと、関東七都県にまたがる重要な支部と認識していますが、これと言った活動ができません。支部会員の方々には、幹事の一人として申し訳なく思っています。支部総会の開催に向けて、微力ですが努力したい所存です。



写真は、酒井先生、大内副支部長（昭和三四年卒）、庶務・会計幹事（藤井・昭和四六年卒、藤田・昭和五十年卒）と有志（中川・昭和四八年卒、松野・昭和五十年卒）で昨年開いた幹事会時の記念写真です。

滋賀支部日より 回想と現状
支部長 藤谷 勝
(昭和二六年卒)

支部の設立が平成四年九月で、今年で丁度九年目に当たります。理工学部内の草津キャンパス移転時期、草津市内に住む山田先輩（昭和二二年卒）は隣組と云う環境から、母校愛に強く、県民の誇りと情熱に満ち溢れた持ち主で、秀でたリーダーシップの発揮により、機友会支部の第一号としてスタートを切って頂きました。当時の役員は何から手掛けたら良いのか暗中模索で、取り合えず会則の作成を始め、会員名簿の整理、地域別役員候補者の選出など前会長を中心に協議検討を重ね、「楽しく力強いびわこ機友会」をモットーに、頑張つてこられた山田前会長の意志の強さと精神力には頭の下がるものがあります。

この様にして平成六年には第二回、平成八年には第三回、平成十年には第四回、平成十二年には第五回と支部の総会を着実に実施して来る事が出来ました。その間、総会のメインテーマには時代をリードした実社会に即した講演会の選択や会則の一部改正、会員名簿の充実、終身会員の確保と資金固めを図るなど、精力的な動きに努



めてきました。また、支部活動の情報提供には隔年毎に「びわこ機友会ニュース」の第一号〜四号までを発行し、支部会員相互の友好と連携を図つて参りました。

平成十二年度の第五回支部総会の内容につきましては、既に「機友会ニュース第六号」で庶務幹事の武田幸三さんから詳細に紹介して頂きましたので省略させて頂きますが、不肖、私が第二代目支部長として就任することになりました。

支部設立の回想中にも述べておりますが、前任会長の業績が偉大だっただけに、大変なことになったと案じています。現状としては、先般、第十二回幹事会を開催致しました処、山田顧問にはお元氣な様子で出席され、協議検討の場に入つて頂き役員一同、安堵した所であります。その時の幹事会の様子について下記の通りご報告致します。

記

日時：平成十三年九月十六日（日）
十七時〜十八時三十分

場所：彦根駅前「龍鱗」
出席者：藤谷、山田、石川、北河、尾本、山元、藤野、武田

Ⅰ 議事内容

一、計報報告
会計幹事の青木一夫氏が去る三月二十七日に心不全のため、ご逝去され、びわこ機友会からは生花を送った旨、報告の後、黙祷しご冥福をお祈りしました。

二、平成十二年度内容報告

(一) 第五回総会の総括：名簿会員総数（平成九年度卒まで）…三八六名を把握、内、終身会員…五九名、年会費会員…三九名を数え、今後、更に増員を計る必要があり、今後の検討課題とした。会則も顧問の新設、事務所を会長宅に一部改正した。

(二) 平成十二年度会計報告：関係書類を青木宅より入手、確認の上、報告を行なった。

三、今後の運営について

(一) 会計幹事の後任には次第六回総会までの間を尾本副支部長に兼任にてお願いすることで承認された。

(二) 役員移動に伴う増員が不可欠であり、緊急課題として検討を進める事とした。

四、その他
(一) 終身会員の増員対策に関して、勤め先別・卒業年度別等を考慮し勧誘する。

(二) 会員名簿作成の充実に関して、立命校友会と連絡を密にする。

(三) 会員（特に終身会員）の消息を的確に把握する必要から、住所変更および計報等については必ず支部長宛まで連絡して頂くことを、「びわこ機友会ニュース」第五号に掲載し、協力をお願いする事とした。

Ⅱ 懇親会

会議終了後は、中華料理を頂きながら楽しい懇談会に入り、今後の課題を中心に意見交換ができ、盛会で有意義な幹事会を閉会する事が出来ました。

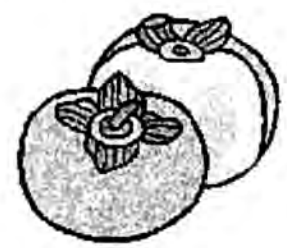


京都支部だより
 支部長 中野 廣
 (昭和三二年卒)

機友会の会員の皆様には、各界で、また公私にわたり充実した日々を送りのお慶び申し上げます。

私達の京都支部は一九九二年十月三日に設立され、現在会員は一一〇〇余名となっております。京都支部の様子は、坂根先生から機友会ニュース第六号の支部だよりにて、第三回総会を中心に紹介していただいておりますので、その後について報告いたします。役員構成は、支部長以下、副支部長三名、庶務幹事三名、会計幹事二名、監査二名、そして顧問には酒井先生にお出まじいだいております。

二〇〇〇年十一月二五日、このメンバーで役員会をおこないました。ここでは、新しい役員相互の理解と支部運営にあたっての話し合いをおこないました。食事も含めてなごやかで有意義な会合であったように思います。そして経済環境の悪化する中で、お互いどのような対処すべきか、などの意見交換もありました。そんな中で立命館大学の発展振りを、近況もあわせて私達一人一人の喜びであるとして、確認いたしました。特に「教員の誰もが大学に使



われていると考えていない」という言葉を聞きましたが、企業にも通じる究極のキーワードとしておおいに参考にすべきと思います。次回は、本年の十一月十七日に計画していますが、年内に総会を開催いたしたく取りまとめをおこなう予定です。

次に個人的な話で恐縮ですが、機友会の発展の一例を報告いたしたいと思っております。私の勤務する大阪産業大学では、本年四月、人間環境学部を開設しました。この設置申請のため二年間、学部長候補としてよく文部省に出かけあれやこれやと審査を受けてきました。審査は、いつも有名大学の学長クラスが主査、副査を勤め、加えて文部官僚数名で構成されていきました。昨年末、いよいよ今日が最終審査という日、緊張のうちに審査室に入りますと、なんと正面の主査席に大南先生がいらつしやるのです。お役目上、代表して多数の質問をなさいますので、初対面風によそおいつつ冷汗ものの答弁をおこ

なっていました。最後は大変かつこう良く切り上げていただきました。お陰さまで年末には最終認可をいただくことが出来ました。審査の最終カードが、いつも指導をしていただいている機友会の先輩とは、文部省も卒な計らいをするものだ、と感心しながらも立命館、ひいては機友会の発展のお陰と感謝いたす次第です。

兵庫支部長の交代と
 第四回支部総会の開催
 支部長 岡村 司朗
 (昭和三三年卒)

平成六年三月に設立された兵庫支部は、本年で七年目を迎えました。この間、幾多の役員会を開催して、「兵庫支部だよりの発行」「会員名簿の発行」「種々の見学会」を行なうなど、積極的な支部活動をやってきました。また、二年に一回の支部総会の開催を通じて、会員相互の親睦を深めてきました。

機友会兵庫支部発足以来、兵庫支部長として、ご活躍されてきた大庫典雄氏(オークラ輸送機(株)代表取締役会長)が平成十一年の第十七回定時総会で、機友会本部の機友会会長に就任されました。同氏は、長い間にわたって、機友会兵庫支部の設立とその基礎固めと、会の発展の

ためにご尽力されてこられました。ここに、大庫典雄氏に深く感謝を申し上げるとともに、今後も機友会兵庫支部の顧問として、ご助言を賜りますようお願いいたします。

その後任を受けて、図らずも私、岡村司朗(株)ライゼ顧問)が機友会の兵庫支部長を務めることになりました。非力ながら兵庫支部の発展と機友会本部の発展に貢献するように最善を尽くす所存でございます。どうか機友会の会員の皆様よろしく



お願い申し上げます。

第四回、機友会兵庫支部総会と懇親会が平成十二年六月二四日に神戸市立農業公園「神戸ワイン城」で、晴天のもと盛大に行なわれました。当日は、来賓として、機友会本部より機友会会長の大庫典雄氏、機友会庶務幹事の酒井達雄氏、機友会会計監査の小野健二氏をお招きして、ご挨拶を賜りました。

大庫氏より、機友会の組織が全国にわたって広がりを見せていることなどを拝聴し、会員として非常に力強く感じた次第です。

また、機械工学科の教授として、ご活躍されている酒井氏より、母校の現状と新しい展開についてのお話があり、立命館大学の限りない発展を喜ぶとともに、同窓生としての誇りを感じました。

その後、懇親会へ移り、焼肉パーティーを通じて、出席者ともども和気合い合いの中で会員相互の懇親を深め得た、有意義な一日でした。

平成十三年七月八日に行われた「立命館大学兵庫県校友会のつどい」に機友会兵庫支部の役員と会員が多数出席し、会を盛り上げました。

このように、兵庫支部は支部活動を活発に行なうとともに、他の校友会行事にも積極的に参加して、校友会との親睦の輪を広げて行きたいと考えています。校友会員の皆様、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

九州支部の歩みを振り返って、
思うこと
支部長 石橋 徹
(昭和三五年卒)

九州支部は機友会十番目の支部として発足してから早くも三年が経過いたしました。これまでの機友会ニュース記事と一部重複するかも知れませんが、これまでの九州支部の歩みを振り返ってみたいと思います。九州支部設立準備委員会が平成九年十二月に酒井教授のご指導を得て開催され、支部設立発起人代表の鹿見島大学工学部教授・松村博久先生を中心に十八名の準備委員と共に設立準備に着手し、二回にわたる委員会協議を経て、平成十年七月、大南正瑛前立命館総長・学長、島田泰男機友会会長、機械工学科の酒井達雄教授のご出席を得て、アークホテル多ロイヤルにおいて、大南正瑛先生による設立記念講演に引き続き設立総会が開かれ、九州支部設立が実現いたしました。支部長には前述の松村博久先生がその任を負って下さることにいたしました。

平成十二年十月に第二回目の役員会と支部総会が前回と同じ場所で開催されました。機友会本部から酒井達雄先生にまたご出席をいただいて、母校の状況や将来展望のお話をお聞きし、設立総会時に大南正瑛総長・学長よりお聞きした設立記念特別講演「立命館APUの創設と立命館大学の新展開」と通じるところがありません。母校の発展ぶりはおもとより大南先生のリーダーシップに呼応して母校の教職員が母校の発展のために如何に素晴らしい働きをなさっているかを目の当たりにし、敬意を表すると共に、強い感銘を受けました。また、第二回の総会では、松村博久先生からの支部長交代の申し出があり、慰留の甲斐なく承認され、はからずも私が松村先生の後任を引き継ぐ事になりました。その器でないことを私が一番知っておりますが、今の自分があるのは母校のおかげで、その礎を築いてくれた母校に対し、少しでもお役に立てばと思ってお引き受けした次第です。会員の皆様のお力添えを頂きながら誠心誠意努めたいと思っております。



第一回・第二回の支部総会・懇親会を通じて、支部活動の大切なキーワードは会員相互の親睦と母校との連携であると受け止めました。

個人的な出会い・体験として、支部総会・懇親会で言葉を交わした機友会先輩の娘さんが、私の現在勤務している大学の卒業生であることを知り、先輩が大変身近な存在になりました。また、同窓事務所の課長が機友会九州支部庶務幹事と元企業勤務時に同僚であったことが判り、以後、その企業のゴルフコンペに三人で参加したり、メールで情報交換をしたり、同窓生同士の繋がりの不思議さ、ありがたさを痛感しています。この様な出会い・体験を多くの会員の方がなさっているのではないかと思います。それぞれの出会い・体験を通して連帯の輪が広がり、さらに、地域毎の輪と輪が一つになって大きな力となり、母校と連携してその力が生かされたらと思う今日この頃です。



三二年卒 同窓会を開催
魚住 周弘
(昭和三二年卒)

私達、昭和三二卒業同窓生は苦節の歩みと共に広範な分野で活躍している人が多く、クラス会も三年毎に

行ってまいりましたが時の経つのも早いもので四四年を迎えることとなりました。今日を迎えられるのも前任幹事さんのお力添えと皆様方のご協力の賜物であり、心から感謝致しております。

本年も二一世紀を迎えて平成十三年六月九日土曜日京都タワーホテル・飛雲の間に於いて参加者三十数名と恩師の寺石稔先生、現職の酒井達雄先生をお招きして開催致しました。受付は午後五時でしたが、出席予定者、全員が仲間意識の協調、万時心得た方々で誰一人も遅れも無く皆さん元気な顔で集合していただき、感心すると共に喜ばしく存じました。

開宴前には、此の度御出席いただきました酒井教授の経歴と現在進められている「金属材料と新素材の信頼性工学」の研究についてご紹介させていただきます、続いて酒井教授から理工学部の近況と機友会の全国ネットの支部組織が出来たご報告、今後の活動を詳しくお話頂きました。

懇親会は記念撮影のあと、寺石先生の乾杯の音頭で歓談に入りました。冒頭に物故者(十三名)に対しての黙祷ご冥福をお祈り申し上げました。続いて「びわこ・くさつキャンパス」に関して事前に上田武嗣さんのご協力により撮影された理工学部の拡充された設備、展望室から眺めた学舎等、ビデオでご披露させていただきました。その節酒井先生にはご多忙の中をご案内賜り誠に有難



立命館大学 機械工学科

う御座いました。会場は歓談しながらも、数人の代表者より懐かしい思い出話、近況をお話頂くなか、当日のコンビニオンがBKCの学生で益々緊密度が高まりました。最後は松本博文さんの御支援により現応援団の学生さん数名が特別参加して頂き校歌、応援歌と共に大合唱となり、会場はいつしか「衣笠の

「空気が」が充滿してまいりましたが、午後八時過ぎ散会と致しました。引続いて二次会に移動しましたが現職を離れられた方々が多数参加され話題も変って、今後の人生を語り合う場となり、お互いが充実感を持った人生を歩む事で閉会と致しました。

今後も皆様方健康に留意され、衣笠で出合った仲間を大切に次回も元気なお顔でお目にかかれる事を楽しみにしています。末尾になります。母校の一層のご発展と共に機友会会員各位の益々のご健勝、ご多幸をお祈り申し上げます。

杉本・笠井会
「杉本先生をしのぶ会」行われる
大金 普
(昭和三十二年卒)

去る三月十日(土)は、杉本先生の七回忌のご命日に当り、機友会ニュースの創刊号にも掲載のあった「杉本・笠井会」の呼び掛けで「先生をしのぶ会」が盛大に開催されたので紹介する。

当日は、まず生前、杉本先生に公私共お世話になった(お仲人など)方々、十五名余が午後三時に叡電出町柳駅に集合、先生の眠られる八瀬の地に向った。

道中、三々五々に思い出話を語り合いながら墓前に到着、献花の後、



それぞれの思い出と近況を胸に秘めて、順次お参りを行った。

さて、主行事の「杉本先生をしのぶ会」は京都ホテルで午後五時より行われた。

会場には、内燃研や自動車部のOB、また個人的にもお世話になった人など、幅広い年層の方々、六十有余命が集い、誠に盛大に開催された。

会は、幹事の挨拶に始まり「杉本・笠井会」の経過報告に続いて、「杉本先生をしのぶ黙祷」ののち、立食形式で行われた。

その間、各年代を代表する方の次々の思い出話を聞きながら、出席者一同、それぞれに在りし日の杉本先生をしのぶのであった。

会は途中から年代を越えた交流や親睦の場となつて、早春の一夜を三時間に渡つて盛り上がり、閉会に当つては、全員輪になつて校歌を斉唱し、再会を約した。

おわりに、杉本先生ご退職後二五年余を経過した現在、なおこのような大勢の教え子に慕われる杉本先生を改めてしのぶとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。



青木一夫氏逝去
びわこ機友会顧問 山田元助
(昭和二十二年卒)

当会役員として創立以来ご尽力下さった青木一夫氏は平成十三年三月二五日急性心不全のため急逝されました。

同氏は機械科学生時代を戦中、終戦、戦後の非常時に過ごし、機友会



の中でも「ひとときわ」結束が固いと評価を得ている二十二機会(昭和二十二年の卒業生で組織)の会員としてこの五十数年來、共に母校の発展を見守つてきた同志の一人であります。

尊敬する親友の悲報に接し誠に感概無量、痛惜の感に堪えません。ご葬儀は平成十三年三月二十八日、大津シティホテルで盛大に行なわれました。

ここに青木一夫氏の生前のご功績を偲びますと共に謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。



事務局だより

機友会ニュースも、平成七年十一月二六日の創刊以来、年に一回のペースで、今回第七号を発行することが出来ました。各支部関係者や会員の皆様には、お忙しい中、貴重な原稿をお寄せいただき、誠にありがとうございます。今後とも、より良い紙面を目指して、努力してゆく所存ですので、幅広くご支援を賜りますよう、何卒よろしくお祈り申し上げます。最後になりましたが、会員各位の益々のご健勝とご清祥をお祈り申し上げます。

立命館大学機友会事務局



〒525-8577

滋賀県草津市野路東 1-1-1

立命館大学 理工学部 機械システム系学系

Tel. 077-561-2664

Fax. 077-561-2665